

5.6
みどり

ノボリコ大漁ご満悦 日南



「10kgの大漁は6年ぶり」と話す那須さん(右)

日南市の酒谷川下流で、初夏が始まった。4月29日には、保存会員が喜んだ。夏を告げる風物詩、ノボリコ6年ぶりという10kgの大漁

吾田東5丁目の那須義春さん(87)らノボリコ漁保存会の会員ら3人が午前8時、東光寺橋下流の川岸近くに網を設置した。川底をくわでならして幅2m、長さ3・5mの網を敷き、石を置いて固定。ノボリコが入るのをじ

っと待った。

時折のぞくと、置き石が見えなくなるほど魚影が濃く、青い網が黒く見えた。はやる心を抑えて午後3時すぎに網を揚げると、ノボリコが右にびっしり張り付き、網の中に落とすのにも一苦労。網を振るたび飛び跳ねた。ひしゃくですくい、容器に入れた那須さんは「こんなことが時々あるからやめられない」とご満悦だった。

ノボリコは、ボウスハゼの稚魚で体長2〜3cm。上流で産み落とされた卵が流され、河口近くでふ化し、遡上(そじょう)してくる。

4月中旬から始め、5回目の漁だったが、この数回は数匹捕れるなど漁果は上向きだった。「昨年は濁水でさっぱりだった。今年は水は多いが水温が低い。水が冷たいと駄目なはずなのだが」と首をかきながら大漁にほくほく顔。「今年は長さそう」と期待していた。漁は6月末までの予定。